

エクサン・プロヴァンス能舞台

(2012年5月24日付け)

5月20日付けラ・プロヴァンス紙(エクス版)記事概要

「能：未来を秘めた失われた宝」

1. 能は日本精神の凝縮である。仏では、大衆の知る文化とは言えないが、1992年、舞台が市に寄贈されて以来、エクスは能に関しては文化的首都の役割を演じてきた。

能舞台に隣接する美術学校の移転は2013年に予定されているが、能舞台の移転先は決まっていない。

移転先をめぐっては、市、狩野家、能協会の間で協議が重ねられ、日本政府も関心を寄せている。塚原在マルセイユ日本国総領事が説明するように、「日本の外にある唯一の遺産で極めて貴重なもの」であり、移転させる場合には日本から作業を監督するため専門家が来なければならないものなのである。

狩野丹秀氏と夫人の聖子氏は、5月9日、「ジャンヌ・ダルクの一生」演能のために来仏した一行とともにジョアサン市長に迎えられたが、その際も舞台の将来について触れた。

聖子氏は、「移転は能舞台にとって好機」と捉え、「現状では、浴びる日差しが強すぎて、床板の乾燥も激しく痛みが目立つ」、「日本では檜の能舞台は、寺社と並び神聖な場とみなされ、光り輝いていなければならない」と力説。西洋人には取るに足らないように見える傷みでも、日本的完璧主義から見ると、管理不行き届きになるということであろう。

残るは移転先で、市が提案したいくつかの公園の内、狩野方の関心を引いたのが、旧セザンヌ邸であった。聖子氏は、「セザンヌは、日本人に魔法の力をもって働きかける名前」と言い、能舞台を受け入れてくれたらと願っているようであるが、移転して果たして調和するかが課題となろう。

市で本件を担当するガレーズ都市担当助役は、旧セザンヌ邸は候補地のひとつにすぎず、十分な時間をかけて検討する構えで、移転の日取りなどは時期尚早として明らかにしなかった。

2. 狩野家に関し、丹秀氏の履歴(喜多流総帥、重要無形文化財保持者、仏芸術文学勲章叙勲者)、及び了一氏についての解説あり。

3. 地中海日本館(仏日文化諸協会の連合体)代表による、エクス能舞台の由縁、寄贈の経緯。

(了)